

32回目

令和元年5月14日

ドクター統合

まず、地力低下を補うために、更に多量の化学肥料を使うようになり、これがまたさらに多くの農薬の使用を招きます。

そのために、害虫の天敵が減少し、害虫や病原菌は耐性を増し、より一層強力な農薬を頻繁に使わざるをえないということになります。

このような強力な農薬の残留した食品が、人間の健康に悪影響を与えないわけがありません。

私はいつも有機無農薬野菜を売っている店で野菜を買っています。

しかし、それが本当かどうか分かりません。そのような作り方をしている、周囲から農薬が飛んできるともあるからです。

ミセス右脳

一体どうすればいいのでしょうか。

ドクター統合

有効で簡単なやり方の一つとしては、蒸気技術の専門家である平山一政さんが提唱する方法を使うことです。

彼によると、50度のお湯で30秒から2分野菜を洗うことにより、表面の汚れや酸化脂質がよく落ちるとのことです。これによって多くの農薬が落ちますし、そればかりではなく野菜や果物がヒートショックを起こして気孔が開くため、鮮度がよみがえり、日持ちがグンとよくなり、アク、臭みが取れて、甘味、うまみがアップするのです。

ところで、この農業の悪循環を解決する試みとして、私が注目しているのが横堀幸一さんらが群馬県前橋市にあるひふみ農園赤城で行っている新しい農法です。

ミスター左脳

それはどういう農法なのですか。

ドクター統合

彼らは、山下昭治博士が発見したnウォーターを使って農業を行っています。

nウォーターとは、人間や動物、植物などすべての生き物の細胞の内部にある生体水に限りなく近い水のことです。

nウォーターの中には、 2×10^{-12} マイナス 12 乗モルという超微量の二価三価鉄塩が含まれています。

この二価三価鉄塩は、生きて人間や植物にのみ含まれていて、死んだ動物の体内や枯れてしまった植物の中にはありません。

人間は日々の仕事や生活で活性酸素が発生して身体が酸化し、それが病気につながっていきます。nウ

ウォーターは、この二価三価鉄塩によって人間や動物、植物の酸化してしまった体を、元の酸化していない状態へと戻す還元作用を持っているのです。

そのnウォーターを農業で使うことで、作物の正常な成長や再生能力を促進し、有害イオンや病原菌を阻止し、環境を浄化することにもつながっています。

ミスター左脳 うーん、理屈が難しすぎてわかりません。

農業ポータルサイト「農業JAPAN」メールマガジン